

# 令和2年度 中央区立佃中学校 自己評価報告書

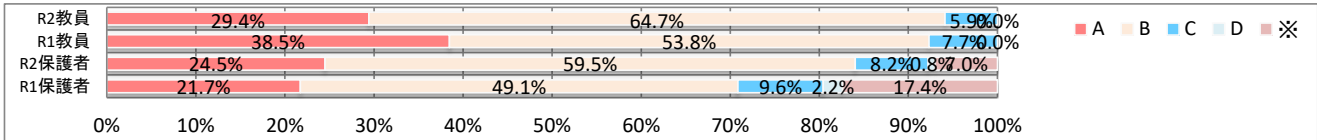
学校名: 中央区立佃中学校 所在地: 東京都中央区佃2-3-2  
 校長名: 大倉 清子  
 生徒数: 313 学級数: 9 教員数: 26(非常勤:7) 職員数: 40

A:十分達成している B:達成している C:改善を要する D:緊急に改善を要する ※:わからない

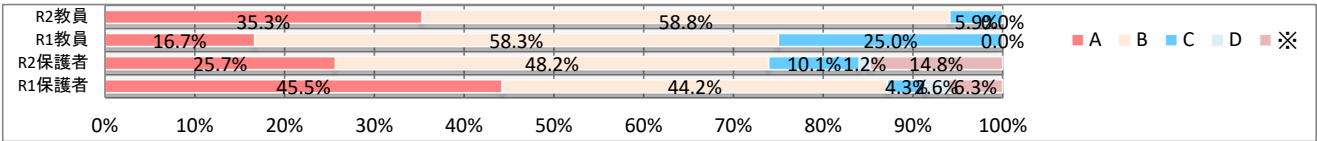
## 1 重点目標の達成状況及び取組状況・達成状況

### 重点目標1 信頼と誇りのもてる学校づくりを推進する。

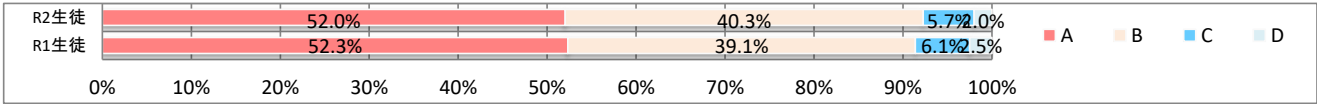
①学校は、学校行事、生徒会活動、部活動、特別活動等や挨拶運動、ボランティア活動を推進し、生徒の自治力、愛校心、社会性、自他を大切にすることを育んでいるか。



②学校は、組織的な対応を行い、いじめ・問題行動等の未然防止や対応、不登校生徒や特別な支援を必要とする生徒への対応に努めているか。



体験学習や総合的な学習の時間は、生徒が自らの進路を考えるきっかけになっている。



### <重点目標1について>

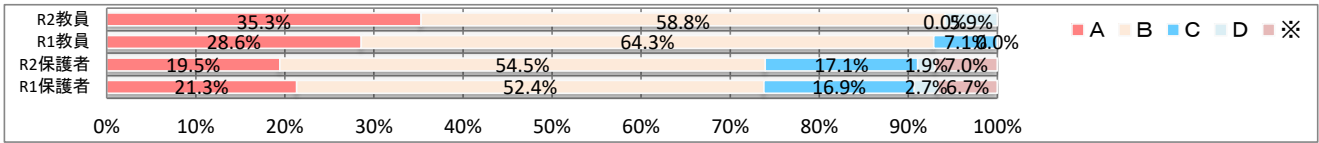
学校教育は、生徒と教師、学校と保護者、地域との信頼関係の上に成り立つ。生徒にとって誇りのもてる学校であることが日々の教育活動を支える基盤となる。質問項目①②については、重点目標「信頼と誇りのもてる学校づくり」の中心的な取組についての評価である。

①については、今年度は**新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、学校行事は中止にせざるを得ないものが多かった**。しかし、「働く人に学ぶ会」の全校実施や、総合的な学習の時間における進路学習などは実施できた。また、生徒会活動や部活動、あいさつ運動、ボランティア活動も縮小した活動ではあったが継続し、機会が減少しながらも、生徒たちの心に響く教育活動となった。②については、昨年度に比べ、自己評価の肯定的評価が上昇した。教員間の情報共有を丁寧に行い、教育相談・不登校対応の部会を設定するなど、組織的な取組の成果である。しかし、保護者の肯定的評価が15%以上下がった。公開する行事がなくなり、保護者が学校の様子を知る機会が減少したことも要因と考えられる。保護者対応の在り方を課題としてとらえ、改善を図りたい。

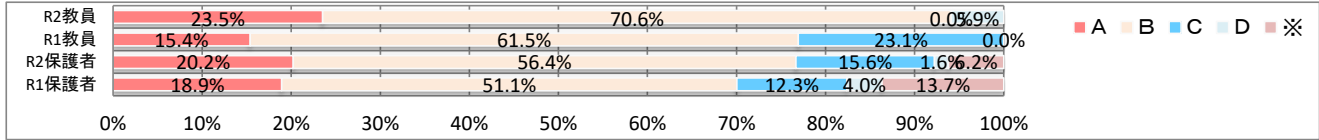
A:十分達成している B:達成している  
C:改善を要する D:緊急に改善を要する ※:わからない

## 重点目標2 未来をめざす生徒達に「確かな学力」をつける。

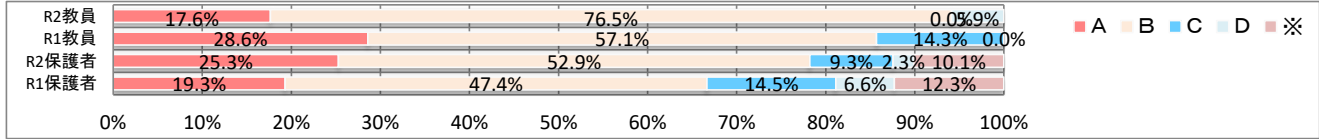
①学習課題の提示、振り返りを通じて、学習の見通しをもち、課題を発見する力が育っているか。



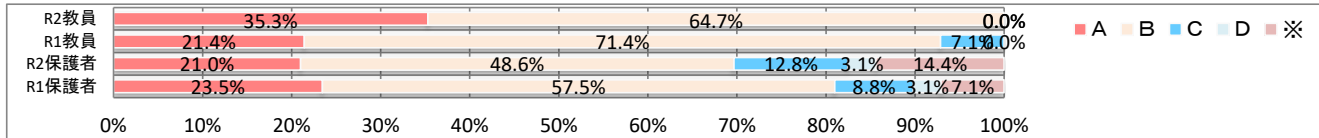
②主体的、対話的で深い学びにより、生徒は思考力・判断力・表現力や問題解決能力を育てているか。



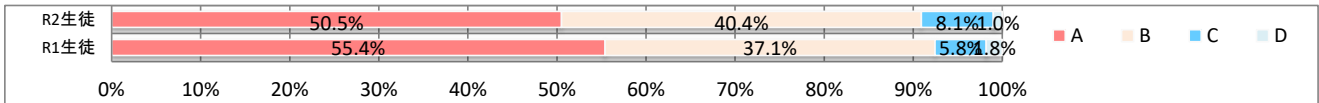
③体験的学習や選択的学習、横断的学習による総合的な学習の時間を通して、生徒は学習意欲や探究心を高めるとともに、自らの進路を考え「未来をめざす」きっかけとなっているか。



④学校は、指導と評価の一体化を図り、組織的に授業改善に努めているか。



先生方は学習目標と振り返りを示し、学習の見通しをもたせ、生徒の学力を高めてくれている。



### <重点目標2について>

重点目標2は、学力向上や、教員の指導方法に関わるものである。授業は教育活動の根幹であり、評価・評定への信頼は学校が担う信頼の中心となる課題である。今年度は、公開授業も2学期に開催できただけで、参加する保護者の方も少なかったため、教育活動の様子は、学校だより、学年だよりなどに限られてしまった。今回、保護者アンケートを実施するに当たり、生徒の授業アンケート結果と、学校の取組の補助資料を送付した。

①新学習指導要領の全面实施を控え昨年からの取り組みでいる教員による「学習目標と振り返り」は、自己評価で94%の職員が肯定的に評価し、取組2年目を迎え、定着が図れた。②の「主体的・対話的で深い学び」について、94%の教員が肯定的回答をしている。1学期はグループ活動等の制限があったが、2学期はグループ活動等に取り組む授業が活発化した。全校で120台のタブレット端末配備も教員の意識を高める要因となっている。来年度の新学習指導要領全面实施に向けて着実に授業改善を行う姿勢が育まれている。③④についても教員の自己評価の肯定的回答は昨年度よりも上昇している。学校目標への教員の理解が広がり、研修委員会の定期開催などの組織的な取組が効果を上げたと感じる。

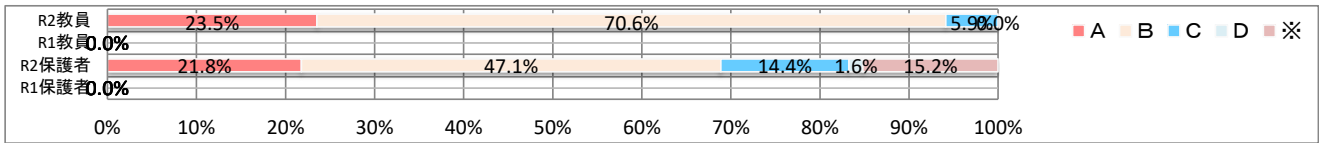
保護者については、①～④の設問について、若干ではあるが「わからない」の回答が減少した。生徒の授業アンケート結果や、学校の取組を資料として添付した成果ととらえたい。今年度は行事公開、授業公開の機会が大幅に減少したが、次年度は、今求められている教育活動・手法について少しでも保護者の理解が進むよう、引き続き学校からの通信による授業についてのお知らせや、今年度実施できなかった授業公開における略案の提示等、どんな資質・能力を育成するのかを明確にするなどの工夫を行う。

生徒については、学習の見通しと振り返りについて、まだ意義を捉えられていない生徒が若干存在することを課題としてとらえる。次年度より、観点別学習状況の評価の観点「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3観点となる。生徒が主体的に学ぶには学習目標を生徒と教員が共有し、振り返ることで次の学習につながることを生徒・保護者に伝えていくことが必要だと考えている。

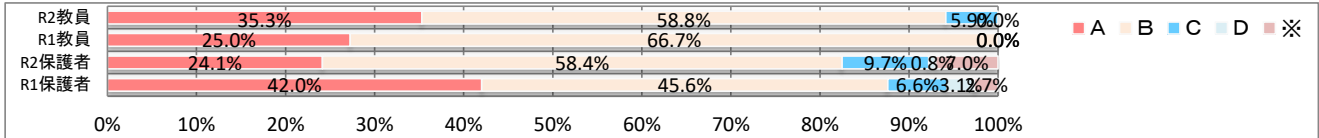
A:十分達成している B:達成している  
 C:改善を要する D:緊急に改善を要する ※:わからない

重点目標3 グローバルな視点をもつ生徒の育成ー東京2020大会の機会を生かした知徳体からなるオリンピック・パラリンピック教育や国際教育の推進を通してー

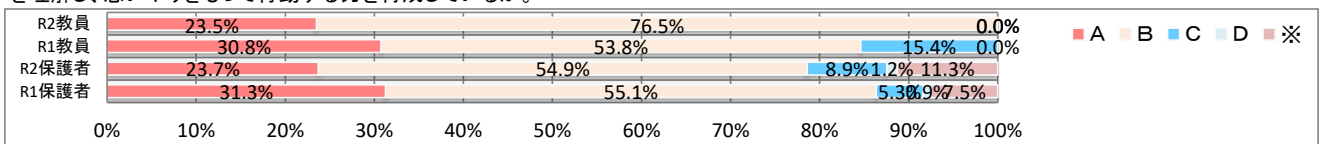
①「知」…各教科の授業を通して、自ら「主体的」に課題を発見し切り開く力を育成しているか。



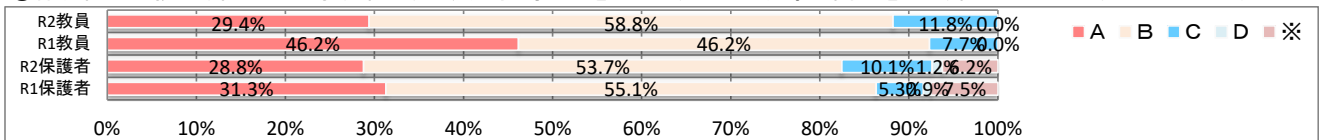
②「徳」…道徳授業、人権教育、平和学習などを通して、多様な考えを「対話的」に共有し、自他の生命や立場の異なる他者を尊重しようとする心を育成しているか。



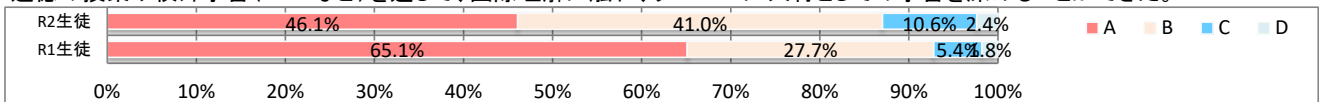
③「体」…オリパラ教育に関する講演会(3学期予定)、一校一国運動(1年韓国講座等)、さまざまな体験を通じた「深い学び」により、多様性を理解し、思いやりをもって行動する力を育成しているか。



④保健体育の授業、体育的行事、部活動や食育指導などを通して、自己の健康に関心をもち、体力の向上に努めているか。



道徳の授業や校外学習(TGGなど)を通して、国際理解に触れ、グローバル人材としての学習を深めることができた。



<重点目標3について>

本校は、昨年度より中央区教育委員会研究奨励校として「東京2020大会の機会を生かした国際教育の推進」を研究主題として校内研究を進めている。目指す生徒像は「国際教育の推進を通してグローバル社会を主体的に生き抜く生徒」である。「グローバル人材としての学習」とは、多様な価値観を理解し思いやりをもつ生徒の育成のための学習という意味を持つ。

項目①について教員の肯定的評価は90%以上であったが、保護者は70%にとどまった。「主体的な学び」に向けた授業の取組について生徒および保護者にいっそう周知を図る必要がある。②の「道徳授業等」については、一層の充実のために、授業の持ち方を含め、組織的に改善を図りたい。③「オリパラ教育」をはじめとした「グローバル人材の育成」に関わる指導については、自己評価では肯定的評価が占めた。保護者もコロナ禍における限定的な教育活動ではあったが80%を超える肯定的評価を得た。一層の充実を図りたい。④「体力の向上」については、今年度は限定的な取組とならざるを得なかった。しかし、感染症予防の観点では今まで以上に自己の健康に関心をもち、安全安心な生活を心がけている実態はあったので、今後につなげていきたい。

## 2 重点目標以外の自己評価における達成状況及び達成のための取組状況

学校評価として質問した項目は、生徒は17項目、保護者は26項目、教員自己評価は117項目である。感染症拡大防止の観点から教育活動が制限された中、保護者と教員自己評価の項目数は減少した。質問内容も若干変更した。生徒は、80%以上の肯定的評価が15項目あった。80%を下回った項目は2つで、「毎日家庭学習をしている」(67%)「体力作りに取り組んでいる」(77%)だった。「家庭学習」は新規の項目で比較はできないが、「体力作り」は昨年度は87%だったので、部活動や地域活動の制限の影響だと考えられる。しかしそのような制限ある中でも、「あいさつ、規則、部活動等」の質問5項目では90%以上が肯定的評価をしており、生徒が規律正しく、生き生きと活動し、概ね満足している状況があると考えられる。学習面では、昨年90%台だった「授業の内容はよくわかりますか」(87%)「得意な教科はありますか」(88%)と若干下降した。区のサポートテストや定期考査等の学習状況を踏まえ、丁寧な取組を今後検討する必要がある。

保護者の肯定的評価については、50%台が1項目、60%台が1項目、70%台が9項目、80%台が14項目、90%台が1項目であった。評価が90%以上だったのが「学校だより、学年だより、学校公開等による学校生活のお知らせ」に関する内容だった。逆に最も低かったのが「学校のICT、図書館利活用」に関する内容だった。この最高と最低の項目は昨年と同じだったが、学校のICT環境についてはタブレット等の整備が進み、評価は8ポイント上昇した。

教員の自己評価では、100%肯定的評価をした項目は5項目であった。内容としては「健康安全」「区講師との連携」「部活動」「いじめの早期発見」「学校予算の編成・執行」に関する内容であった。5人以上が否定的な回答をしてしている項目は6項目あった。内容としては「時間割の作成」「生徒指導方針の共有」「問題行動等への組織的対応」「校務分掌間の連携」「学校開放」「土曜学校公開や夏季補習講座」等に関する内容だった。教員に関しては、課題について改善案を検討し、教員同士のコミュニケーションを密にして、育てたい生徒の姿、育成する能力を明確にして、教育課程の適切な管理運営に努めたい。

## 3 今後の改善方策

### I 信頼と誇りのもてる学校づくりのために

- (1)生徒が自治力を高め、愛校心、自他を大切にすることを育むために、学校行事の運営を生徒が主体的に行えるよう、体育行事委員会、文化行事委員会が状況に合わせた**実施形態**を検討し、生徒に充実感のある行事を計画、運営する。
- (2)生徒会**活動**を中心に挨拶運動、ボランティア活動など、自他を大切にすることを主体的に行うよう計画する。
- (3)教育相談機能を生かした安全安心な学校づくり。いじめ等の問題行動、不登校生徒への学びの保障、特別支援教育などの課題に対して組織的に対応する。スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーと連携した教育相談の充実を図る。
- (4)開かれた学校の推進と家庭・地域との連携  
保護者会で生徒の普段の活動を映像で見せるほか、保護者が参加したくなる企画を工夫して、教育活動の目的と成果を理解していただく機会をつくる。学校情報を学校だより、学年だより、ホームページ、**安全安心**メール等で**適宜**保護者や地域に発信する。
- (5)特別支援教育の充実  
校内特別支援教室「のぞみ学級」や臨海青海特別支援学校と連携して、特別支援教育を推進する。

### II 学力の向上について

- (1)**新学習指導要領完全実施**を踏まえた授業改善の推進
  - ・基礎的・基本的な知識・技能の定着を図ると共に、生徒一人一人に思考力・判断力・表現力を育んでいけるよう、主体的・対話的で深い学びによる授業改善を推進する。
  - ・完全実施となる学習指導要領にある教科の見方・考え方、3観点「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」に整理された学習評価をふまえた授業計画を行う。
  - ・教師用タブレット**端末**が配備され、5教科では指導用デジタル教科書を活用して、視覚教材や音声教材を活用してわかりやすい指導を行う。生徒用のタブレット**端末**を活用し、話し合い活動や意見の集約をICT**機器**を活用して効率よく行う。
- (2)個に応じた指導のさらなる推進
  - ・区・都・国の学力調査、定期考査等で生徒一人一人の状況を的確に把握し、数学・英語においては少人数授業や弾力的なクラス、グループ編制を行う。学力の未定着層に関しては、区講師による放課後補習教室を開設する。
  - ・少人数授業(英語・数学)においては教科部会を毎週行い適切な授業運営を行う。
  - ・生徒がタブレット端末を持ち帰り、計画的に個々に応じた課題学習が行えるよう環境を整備する。

### III 多様性を尊重し、自他への思いやりを育むグローバル人材の育成について

(オリンピック・パラリンピック教育・国際教育の充実を通して)

- (1)中央区研究奨励校研究発表会(令和4年2月)に向けて、研究推進委員会を定期的に開催し、校内研修の充実と研究の推進を図る。
- (2)国際教育は、「一校一国運動」「JICA校外学習」「TGG校外学習」「平和学習」等、総合的な学習の時間や各教科の時間を有効に活用し、育てたい力を明確にしたカリキュラム・マネジメントを行う。

### IV 学校組織の改善について

#### (1)校内組織の連携の充実と活性化

教員の職層に応じたOJTを推進し、分掌主任を中心に課題を明確にして各分掌内の活性化を図り、分掌間の連携を定期的な会議を開き充実させる。

#### (2)教職員の働き方改革の推進

生徒にとって必要なことを重点的に取り組めるように、仕事の内容、進め方の合理化、能率化、焦点化を図る。